



第20号
令和8年3月
(編集発行)
新城市小中学校
PTA連絡協議会
(事務局)
教育委員会生涯共育課
0536-23-7639

「連れてってわたしのしんしろ」写真コンテスト表彰式

新城市小中学校PTA連絡協議会
「連れてってわたしのしんしろ」写真コンテスト表彰式



新城市小中学校PTA連絡協議会機関紙

CONTENTS

P 2	会長あいさつ	P 8 ~11	地域・学校の特色のある活動
	令和7年度の主な行事	P 12・13	ラーニングについて
P 3~P 5	特集記事「研修・講演会参加報告」	P 14	令和7年度役員・理事紹介
P 6・P 7	写真コンテスト		

「PTA 活動をこれからされる皆さんへ」

新城市小中学校 P T A 連絡協議会

会長 龜田 充俊



PTA 活動って何するの？ 役員になつたらどうしよう、と不安を感じる方も多いと思います。私も、正直なところ、会長を拝命した時は、何をやらなくてはいけないかわからず、不安でした。恥ずかしいことに、まず、PTA の役割、目的は何なのか？ が、しっかり理解できていませんでした。

しかし、新城市小中学校 PTA 連絡協議会会則に「児童及び生徒の健全な育成を図ることを目的とする」とあるのを見て、それであれば子どもたちのために 1 年 力一杯 頑張ろう、と考えました。子どもたちの成長はとても早く、小中学校の 9 年は、あっ、という間に過ぎてしまいます。「1 年間、子どもたちのサポートを頑張ろう！」と思ったとたん不安はなくなり、力が湧いてきました。実際に活動に入ってみると、良いメンバーに恵まれ、先生方や生涯共育課の方々の手厚いサポートもあり、これまで知ることのなかった色々なことを知ることができ、あっという間の 1 年間でした。振り返ってみると、私の人生経験の中で、とても有益な 1 年間であったと思います。

これから担う方々の中には、私と同じように不安を感じる方がいらっしゃるかもしれません。安心してください。やってみると不安はすぐになくなると思います。PTA 活動を「お役」と捉えず、「子どもたちの大変なサポート役」と考えて活動を楽しんでください。あなたの活動がきっと「子どもたちの明るい未来」につながります！

令和 7 年度の主な行事

月日	場所	行事名
5月10日（土）	新城文化会館	新城市小中学校 P T A 連絡協議会総会
6月 3日（火）	へきしんギャラクシーブラザ	三河小中学校 P T A 連絡協議会定期総会
6月16日（月）	岡谷鋼機名古屋公会堂	愛知県小中学校 P T A 連絡協議会年次総会
7月16日（水）	愛知県教育会館	愛知県小中学校 P T A 連絡協議会家庭教育委員研修会
8月22日（金） 8月23日（土）	石川県内各会場	第73回日本 P T A 全国研究大会石川大会 第81回日本 P T A 東海北陸ブロック研究大会石川大会
9月 6日（土）	新城文化会館	子どもの健やかな成長をねがう会
10月25日（土）	新城文化会館	新城設楽地区情報交換事業
11月10日（月）	蒲郡市民会館	三河小中学校 P T A 連絡協議会情報交換会
1月31日（土）	蒲郡市民会館	三河小中学校 P T A 研究発表大会

《特集記事》研修・講演会参加報告

令和7年度に市P連役員が参加した研修や講演会の一部を紹介します。

報告①『新城設楽地区情報交換事業』(市P連：亀田)

10月25日(土)に、新城文化会館で、NPO法人親心支援協会 心理カウンセラー 菜花俊先生をお招きし、「不登校解決の秘訣～親と先生ができる3つのこと」をテーマに講演会を行いました。

近年、学校に行けない子どもがとても増えています。子どもが学校に行けなくなる理由は様々であり、子ども自身も理由がわからないようなケースもあります。私の職場にも、お子さんが学校に行けなくなった同僚がいます。話を聞くと、それは突然のことであり、全く予期しなかった、と言います。お子さんが学校に行けなくなったとき、大抵の親はどうしてよいかわからず途方に暮れてしまいます。学校に行けた日は喜び、行けなかった日は落胆し、一喜一憂の不安な日々を過ごされています。

子どもたちが学校に行けなくなるのはどのような気持ちからだろうか、そんなとき親はどう対応しどのような気持ちでいた方が良いのか、そういったことを知っておくことで、少しでもそれに直面した親子の助けになればと考え、今回の情報交換事業のテーマとしました。

最初に講演会で話を聞き、その後、6つの班に分かれ、3つのテーマ(「不登校の未然防止」「不登校の解決策」「家庭教育」)を振り分けて情報交換会を実施しました。始める前は、このテーマで班に分かれて話し合いが成り立つんだろうか、興味を持って話し合いをしていただけるのか、とやや不安っていました。しかし、情報交換会が始まると、どの班もみなさんから積極的に発言ができており、あっという間に時間が過ぎていきました。私も1つの班に入っていたのですが、たった6人の班の中でも、実際に不登校である(あった)、もしくは不登校気味であるという方がいらっしゃり、実際にその体験、どのようにされたか、親としてどのような気持ちで過ごされたかを伺うことができました。話を聞いていて感じたのは、学校に行けなくても、子どもは成長していく。その成長を親として如何に適切なフォローができるか。親が動搖せず、冷静に子どもの見守り、成長を見守れるか、が大事であると感じました。

学校に通い、そこで学びを得ることは大切だと思いますが、今回の情報交換会を通して、今の学校のシステムに合わない個性の子どもが如何にそれぞれの個性を持って学びを得られ、良いところを伸ばせるか、そのためには社会や親がどのように対応すべきか、が必要な時代であると感じました。様々な個性を持つ子どもたちが伸び伸びと成長し、個性を伸ばし、幸せな人生を送れる世の中に変化できるといいな、と思います。そのためには、大人が柔軟な考え方を持ち、これまで当たり前だと思ってきたことを、「今の時代本当にそれが正しいのか」と疑問を持つことが大事だと思います。新城がその先駆けとなる地域になるといいなと思います。



報告②『第73回日本PTA全国研究大会石川大会』(市P連:太田)

【石川で見た復興への希望と子どもたちの無限の可能性】

能登半島地震と豪雨災害を経験された石川の地で、子どもたちの教育と未来について深く考える、本当に貴重な機会をいただき、開催地の皆様に心より感謝申し上げます。

2日間の大会に参加し、まず1日目では、文部科学省の木下氏をはじめ、危機管理アドバイザーの国崎氏など専門家の方々のお話を伺いました。

木下氏からは、防災教育は単なる知識ではなく、災害時に親や先生がそばにいない状況下でも、自ら判断し、命を守り抜く力を養う、とても大切な教育だと教えていただきました。

具体的な備えとして、日頃から食料を多めにストックする「フェーズフリー」という考え方を学びました。また、照明器具をシリコン製に変える、大型家具の固定など、家庭で住環境を整える積極的な姿勢こそが、子どもたちの防災意識を高めるきっかけになるのではないかと感じました。

コーディネーターの猿渡氏からは、被災地の現状とともに、「子どもたちの笑顔こそが復興の原動力になる」というメッセージをいただき、地域社会のつながりの大切さを改めて実感しました。高砂市PTA会長による、子どもたちだけで自主的に避難訓練を実施する地域の紹介からも、保護者と地域が一体となって子どもたちを支えるPTAの役割の重要性を再認識しました。

2日目の特別講演では、ギガスクール構想の提唱者である浅野大輔氏のお話を通じ、未来の教育について深く学びました。1人1台タブレットを活用し、これまでの受け身の授業スタイルから脱却し、教室の外へ学びを見つけ、教科の枠を超えて自分で考え、探求する学習こそが、子どもたちの未来を切り拓く力となると感じました。大会の中で紹介された、高校生の自ら学び探求する姿に、明るい未来と無限の可能性を感じました。

この貴重な学びを通じて、いつ起こるか分からない災害に備え、子どもたちが笑顔で安心して生活できる環境づくりにPTAの一員として全力で貢献してまいりたいと思います。



主催 / 公益社団法人日本PTA全国協議会、東海北陸ネットPTA協議会、石川県PTA連合会

第73回日本PTA全国研究大会
第81回日本PTA東海北陸ブロック研究大会

石川大会

「サステナブルな未来づくりのために」
～創造と協働を 石川から～

2025年 8月22日(金) 8月23日(土)

会場: 8月22日(金) 8月23日(土)



公益社団法人
日本PTA連合会
会長 太田 敏介

第73回日本PTA全国研究大会が、令和7年8月22日・23日、石川県高岡市で開催されました。多くのPTA連合会員と関係団体の方々にご来場いただき、石川県をはじめとする被災地の復興や災害対応など、方々がおこなっている取り組みを学び、保護者に取った行動を、窓口で見学するなどして、一日も早い復興へと心より祈り申し上げます。
どのような活動のか、石川のPTA会員の活動が大会議題に向けて多くのご意見をいたしていることに、心より感謝申し上げます。木下氏が、全国のPTA連合会が「窓口」で被災のとなりが、学びや成長における教育資源の充実のために課題を抱える実質を指すことを大小に指摘して下さい。
県や市町村が設立した防災委員会、PTA連合会、PTA会員、PTA連絡会、保護者と児童青少年、防衛省河川部隊、そして地域中の皆様が、被災地で活動をしていらっしゃる中、子ども達と心を繋ぎ、ともに活動して西日本をとり、参加者の皆様にとって最高の形で必要な活動をして下さい。
局側にあたりご尽力いただいている石川県PTA連合会、文部科学省、石川県教育委員会、その他関係の皆様により多くと感謝を表しますとともに、木下氏が、子供の豊かな育ち満ちた光沢、幸せ、笑顔につながること、また、石川の復興の一助となることを願っております。石川の地で皆様にお会いできることを心より楽しみにしております。



報告②『給食センター運営委員会』(市P連：日下、夏目、小林)

令和6年9月より学校給食センターからの給食提供がスタートしました。稼働に伴い、市P連事業の一環として役員・理事の方々と共に学校給食センターを運営する3つの会議体（給食センター運営委員会・給食献立検討会議・給食物資選定会議）への参加を開始しました。役員が参加した感想を3つ紹介します。

給食物資選定会議に参加しました。校長先生や市役所の方、栄養教諭の先生方と一緒に、おかずのハンバーグや焼き魚、デザートのクレープやゼリーなど、約10品の食材を試食しました。そして、各品目2~5品の中から価格、味、産地の3つの観点で比較しながら検討していました。食べ比べながら話し合いました。貴重な体験をさせていただくと共に、給食に関わる皆さんの努力を感じました。いつも子どもたちにおいしい給食をありがとうございます。



新城市学校給食センター

給食献立検討会議に参加しました。保護者と栄養教諭さんや学校の先生、実際に地元で食材を生産している農家の方などと共に、家庭で子どもたちに聞いた給食の話、食事中の子どもたちの様子、食べ残しの量などから現在の献立の評判を考慮し、改善案を出し合いました。また、農家の方が集まって試行錯誤しているメニュー、郷土料理、世界の料理などを参考にしていることも知りました。今後は、津餃子のような学校給食から生まれて、子どもたちに長期間愛され、定番となるようなご当地名物メニューを開発したいという熱い想いを共有しました。この想いをもって、給食献立検討会議が継続して行われることで、新城市の新しい名物メニューを誕生させていきたいです。名物メニューの誕生により、親子で給食メニューの話題で盛り上がり、地元の飲食店でも食べることができる名物が誕生することを期待させる会議でした。



私は小中学生時代、給食の時間が楽しみでした。とはいって、どんな風に給食のメニューが決まっているかは考えた事がなかったので、とても良い機会でした。栄養教諭を中心に多くの関係者が予算、味、栄養、季節や産地までこだわって献立を作っているとは知りませんでした。多くの人に感謝です。

今年度も多くの役員・理事が参加し、子どもたちを支える給食について深く知ることが出来、生産者の方々を始め、多くの人に感謝の気持ちが深まる事業となりました。



推しスポ!

連れてってわたしのしんしろ 写真コンテスト



本年度は、市P連と市教育委員会の共催事業として写真コンテストを開催しました。

市内の小中学生、保護者・先生から新城のイチ押スポットを募集しました。

審査の結果、入選作品が決定しました。新城市ホームページにも掲載しています。



【優秀作品】(小中学生の部)

ぜひ行ってみたいで賞



「神秘的な廃駅」

梶村 南緒 さん

(鳳来中1年生)

ここはどこで賞



「猛暑日でも涼しい風穴」

山崎 陽詩 さん

(千郷小6年生)

登ってみたいで賞



「ぼくのオススメ乳岩」

藤平 恰輔 さん

(鳳来東小3年生)

夏に行ってみたいで賞



「滝の水しぶき」

小林 竜弥 さん

(作手中学校1年生)

夏に行ってみたいで賞



「あゆの滝登り」

小山 栄璃 さん

(千郷小学校4年生)

ここはどこで賞



「ガリバートンネルを通ってみたい」

梶村 栄斗 さん

(鳳来中学校3年生)

【優秀作品】(一般の部)

気になるで賞



「こんな素敵な道をずっと

歩いていきたいな~」

八名小先生 夏目 亮達 さん

ご利益があったで賞



「吉祥山頂初日の日の出、一斉に

シャッターを切る正にその瞬間！」

八名小先生 河辺 拓 さん

収穫があったで賞



「秋の田んぼと祭礼」

作手中保護者

原田 智章 さん

【入選作品】



「きらっと輝く巴川」

松下 愛理 さん

(作手中学校1年生)



「野田川と飯田線」

細川 侑奏 さん

(千郷小学校6年生)



「ぼくの家から見た夕焼け」

白井 聰満 さん

(千郷小学校6年生)



「つくでの景色」

大木 心菜 さん

(作手中学校2年生)



「見代の大きなオハツキイチョウ」

菅沼 志光 さん

(作手中学校1年生)



「ぼくのお父さんのお茶ばたけ。」

小さいころからぼくのあそび場。

ぼくと同じとしのお茶ばたけもあるよ。」

渡邊 正継 さん

(東郷東小学校2年生)



「青空の下にある田んぼ」

西山 芽依 さん

(作手中学校1年生)



「桜は人の心に花を咲かす」

村上 埼乃 さん

(千郷小学校6年生)



「あるみのおまつり。」

おとうさんかっこよかった。

ぼくもおおきくなったらできるかな。」

渡邊 陽伸 さん

(東郷東小学校1年生)



「作手の日暮」

峯田 紘希 さん

(作手中学校2年生)

地域・学校の特色ある活動

市内4つの地域が、学校の様々な活動を紹介します。伝統行事や思い出に残る行事、各地域や各校の特色を活かした活動の中で、子どもたちや家族の皆さんのが共に過ごし、共に学び、共に育つ「共育」を実践しています。

鳳来エリア「地域と共に50年～ありがとうを未来へ繋げる～」

東陽小学校は令和7年、開校50年を迎えました。

この1年、児童81名は **な** **か** **ま** を大切に
なかよく、**か**しこく、そして、たく**ま**しく、50周年事業にチャレンジしました。その一部をご紹介します。

1. 開校50周年を記念した航空写真撮影

児童と教職員だけでなく、保護者、学区の住民の皆様も加わり総勢150人弱で6年生が原案デザインした人文字風の大きな図柄を色鮮やかなエプロンを広げて描きました。撮影用セスナを見上げる子どもたちの目は輝いていました。



2. 運動会の特別プログラム

今年の運動会では、誰でも参加できる50周年記念リレーを開催しました。速さNo.1を目指すチーム、パフォーマンスNo.1を目指すチーム。その速さと、パフォーマンスに会場は驚きと笑いに包まれました。



3. 復活した全校遠足

今年の遠足は観光バスで「のんほいパーク」へ Let's Go！パーク内では縦割班での行動です。全児童が縦割班に分かれて一人ひとりが自分の役割を果たします。6年生は先生のサポートを受けて、遠足行程を考え、楽しい一日を全力でプロデュース。遠足前には、縦割班会議を実施して当日の行程を確認しました。上級生は年下の子を思いやり、下級生は年上の子を身近に感じる事ができ、協力と思いやりの大切さを実感する1日となりました。



この1年で子どもたちは成長しました。なぜなら、家庭(P)と学校(T)が作り出す団体(A)に地域の皆様を呼び込んだ一年を経験し、感謝の心を育んだからです。感謝の心を持ち続けることが、心を豊かにし、人を成長させるのです。東陽小学校は良い文化を育んできたなど感じた1年でした。そして、この良き文化が未来へ繋がることを心から願っております。

新城・東郷エリア「地域の歴史と伝統の継承」

秋空のもと、東郷東小学校の運動会が開催されました。校庭を力強く駆け巡る児童たちの姿に、観客席は多くの保護者、地域の方々で賑わいました。

特に毎年注目を集める表現種目「合戦と農民」は、今年も6年生を中心に3から6年生の4学年が参加し、力強い演舞を披露しました。この演舞は、本校の地域から程近い設楽原で行われた長篠・設楽原の戦いをモチーフにしています。

本校がある東郷地区には、長篠・設楽原の戦いに関する歴史的な建造物や史跡が多く点在しています。子どもたちは日頃の生活の中で、自然とこの地域の歴史に触れる機会に恵まれています。学校では、この地域固有の特色を活かし、単なる座学にとどまらず、課外学習などを通して歴史に対する理解を深めてくださっているようです。私たち保護者も、子どもたちが身近な場所で「生きた歴史」を学べる環境を大変心強く感じています。演舞は武田軍と織田・徳川連合軍の激しい攻防や武士の勇ましい姿を描く一方で、約1万6000人の尊い命が失われたという戦いの不条理さを、当時の農民の視点から表現する2部構成となっています。そこには、平和への切なる願いと、散華した命への鎮魂の思いが深く込められており、会場全体にそのメッセージが響き渡り印象的な演舞となりました。



今年、設楽原の戦いからちょうど450年という大きな節目の年を迎きました。最高学年の6年生たちは、その伝統と歴史の重みを背負い、特に堂々とした姿を見せることができました。

長篠・設楽原の戦いの中心人物である武田勝頼、山県昌景、織田信長など、そうそうたる武将の役を演じ切った6年生たちは、自分たちの練習に加え、下級生への指導も率先して行うなど、リーダーシップを発揮し、下学年を立派にまとめ上げました。



連日、水筒が空になるほど練習に励んでいた子どもたちですが、演舞が終わった後、校庭に響いた「ありがとうございました！」という大きな声には、やりきった達成感と自信が満ち溢っていました。この伝統行事への取り組みは、クラスや他学年との交流を通して、最高学年としての集大成を飾る貴重な機会となったことと思います。

2学期が始まり、残暑厳しい中、子どもたちが大きな怪我なく練習に集中できる環境を整え、熱心なご指導にあたってくださった校長先生をはじめとする先生方のおかげです。心より感謝申し上げます。

この東郷東小学校に脈々と伝わる「合戦と農民」の伝統を、6年生の立派な姿を見た下級生が来年、再来年と受け継ぎ、さらに素晴らしい演舞していくことを楽しみにしています。

千郷・ハ名エリア 「庭野小学校共育運動会」



庭野小学校では、地域の方と共に運動会を行ってきました。小さな学校に多くの方が集まり、にぎわっていましたが、コロナ以降その姿を失いつつありました。より多くの方に参加していただけるよう、学校・庭野区・祭り保存会・消防団・PTAの各代表が集まり打ち合わせを行いました。熱中症対策をしながら、安全に参加していただけるよう話し合いを重ね、今年度は保護者の方や地域の方も子どもたちと一緒に楽しめる運動会が計画されました。

「覚悟はいいか！ 高ぶる心で魂を震わせろ！ ド根性でぶちかませ！」
というスローガンを掲げ、子どもたちは練習に励んできました。



10月18日運動会当日、天候が心配されましたが無事に開催する事ができました。赤組、白組両チームを応援したいという熱い思いからピンクのポロシャツを着用された中嶋校長先生の挨拶から運動会がスタート！全校児童22名の小学校に、保護者含め100名以上の方にご来校いただきました。また、卒業生にもアナウンスや競技の補助などのお手伝いをお願いしました。

地域の方も赤白対抗で勝負を楽しんでいただけるよう赤白のリストバンドを用意し、「①昭和ダンシング玉入れ ②ジャンケンれっしゃ ③庭野ウルトラクイズ」に参加していただきました。

ダンシング玉入れでは、Y・M・C・Aの曲に合わせて踊ったり玉入れを繰り返したり、恥ずかしそうに踊り始めた方も次第にリズムに乗り、真剣勝負を楽しむ姿が見られました。児童たちは全力で自分のチームを応援し、運動会が盛り上がってきました。

ジャンケンれっしゃでは、ジャンケンをしていくごとに長い列ができ、児童だけでなく地域の方の笑顔がたくさん見られました。数年前の人と距離を取ることを必要とされていた時を経験したからこそ、人と触れ合うことのできる喜びを感じることができました。庭野ウルトラクイズは庭野にちなんだ〇×問題が出されました。小学校の歴史から問題が出された時には、歴代の先輩方の思い出話にも花が咲いていました。



今年は初の試みで消防団による操法訓練の披露がありました。ジャンケンで勝った代表児童が放水体験をし、「水の勢いに驚いた。一人ではホースを持てなくて、思った以上に力が必要な事がわかった」と普段見ることのない消防団の活動に関心を持つ貴重な機会となりました。

運動会の目玉種目、NIWANO よさこいでは全校児童息を合わせた演技で22人とは思えないほどの迫力がありました。地域の方からは「元気がもらえた。子どもたちの真剣な顔に涙が出た。」と感想をいただきました。共育運動会を通して、人と人との温かい触れ合いを経験する事ができ、その大切さも実感しました。私たち保護者にとって、日頃見守ってくださっている地域の方は心強い存在です。行事や祭りを通して庭野区に愛着を持ち、地域の方から様々な事を学びながら大きくなっていく子どもたちの成長が楽しみです。



作手エリア「地域とともに育つ～地域に根づいた活動を通して～」

作手中学校では毎年5月にPTA講演会を開催しています。近年は地元作手にゆかりのある方を講師としてお招きし、生徒や保護者が地域への理解をより深め、地域に誇りをもつ気持ちを育む時間となっています。

今年度は本校卒業生で環境活動家としてご活躍されている久嶋啓太さんを講師としてお招きし、「なぜ地球の生き物を守るのか？～未来へ繋げる、私たちの地域の魅力さがし～」と題して、ご講演をいただきました。久嶋さんからは作手に生息する希少な生物や愛知の水系の中で作手が果たす役割などをご紹介いただきました。鹿、鷹などの猛禽類、コウノトリなどの生物、田畠を耕す中で観察した豊かな土壤の様子など、ご自身が目にした作手の魅力についてお話しいただき、自然を守り、自然の中で生きていくことの大切さを考える機会となりました。



終わりには、人とのつながりやコミュニケーションを重ねることが自分自身を見つめ直し、社会生活をより豊かにするなど、ご自身の活動や経験を交えながら、後輩たちに向けて「周りの自然や人を大切にしながら、未来に向けて一歩ずつ挑戦してほしい」と、熱いエールをいただきました。



参加した生徒・保護者からは地元の自然の価値を改めて知ることができた、「自分たちにもできることを考えたい」といった声が聞かれ、有意義な学びの時間となりました。

今後の学校生活の中で、生徒同士の交流を深めながら作手の魅力に目を向け、ご講演いただいた学びが生かされることが期待されます。

6月7日(土)は、「共育の日」でした。作手地区の小・中学校では、午前中に公開授業が行われ、午後は、作手地域自治区予算による「つくでっ子元気事業」が実施されました。この事業は、「子どもも大人も共に学び、共に育つ」共育活動の一環として、作手地区の小・中学生にスポーツや文化・芸術などの“本物”に触れてもらいたいという願いのもと、平成26年度より行われているものです。企画・運営は、地域住民や保護者によって組織された有志の実行委員会が担っています。毎年、公演当日は、観るだけではなく、小・中学生にもさまざまな役割が与えられ、有教館高校作手校舎の生徒たちも協力し、実行委員会とともに地域の一大イベントをつくり上げています。今年度は、「ワンハーツ・スチールオーケストラ」によるスチールパン・コンサートが開催されました。カリブ海発祥のドラム缶から作られた楽器“スチールパン”を用いた陽気なリズムと迫力のある演奏は、会場を大いに盛り上げました。南国を彷彿とさせる楽しいステージに、子どもたちや保護者、地域の皆さん約235名が来場し、多くの好評をいただき大盛況となりました。



このように作手地区では、地域住民、保護者、学校関係者、行政が一体となって、将来を担う子どもたちの健やかな成長を願いながら、協力し合って魅力ある地域づくりを進めています。今後も本事業が継続し、さらに発展していくことを心より願っています。

《特集記事》ラーニングについて

愛知県全体の「休み方改革」プロジェクトの中で生まれた「ラーニング（Learning(学び) + Vacation(休暇)）の日」みなさんには取得していますか？

ラーニングプランはきっかけと学ぶ気持ちさえあれば思い立ったときにどんなかたちでも実現できます。ぜひ、普段とは違う体験や学びの時間を家族で共有しましょう！



【ラーニング事例】日本三景「松島」の旅と東日本大震災の遺構（市P連：齊藤）

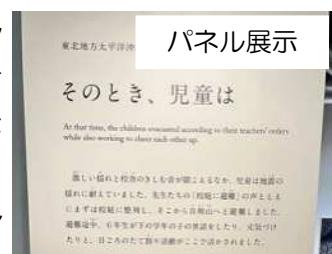
昨年、天橋立を観光したことをきっかけに「日本三景」を巡ってみたいという思いから、今年の夏は松島をはじめとする東北地方を旅行しました。旅行では松島や世界遺産の平泉などの日本文化を堪能することに加えて、東日本大震災遺構を目的地の1つにしていました。最初は石巻市立大川小学校跡を予定していましたが、宿泊先のスタッフの方から勧められて訪問先を急遽変更して同市立門脇小学校を訪れました。門脇小学校は、地震後に津波と津波火災という二重の災害に見舞われた学校です。甚大な被害を受けながらも、在校していた児童、教員、避難していた地域住民全員が、それぞれ臨機応変に判断行動し、避難に成功したという事実には驚きと同時に大きな敬意を抱かずにはいられませんでした。門脇小学校の校舎内には何十メートルも流された大時計、焼け落ちた天井、パイプだけが残った学習机など、被害の凄まじさを物語るものがそのまま残されています。



門脇小学校 教室



更に展示を進むと被災体験者の記憶が、言葉や絵で表現されたパネル展示の空間にたどり着きます。それぞれが苦難の中で悩み、決断して行動したことなどが胸に迫る言葉で語られています。最初は家族で話しながら見学していましたが、展示を進むうちに互いに言葉が少なくなり、展示一つひとつに引き込まれて真剣に見入っていました。親と子、感じることや思い巡らせるることはそれぞれの立場で違うようでした。



津波被害に遭った車

「津波って、こんなにも高く襲ってくるのか」
「子どもたちも自分たちで助け合って行動できたなんて、すごい。」
「そのままその場にとどまっていたら、助からなかった。自分がその立場で行動できたかな。」など、子どもたちと語り合いながら、災害の凄まじさを感じる一方で、人間の強さというものも感じられました。

どれだけAIが発展し社会が便利になっても、未知の状況で考えて決断し、行動できるのはやはり人間が持つ力だと改めて感じました。子どもたちには自ら考え行動する力を養ってほしいと強く思う機会となりました。



オススメ！ラーニングまとめ

山梨 歴史探求

長篠の戦いから450年。
愛知県内の長篠城址だけでなく、武田氏にゆかりのある山梨県武田神社や善光寺などの名所を訪れて歴史探求を深める。

大阪 エンターテイメント

ユニバーサルスタジオでテーマパークの魅力を堪能したり、吉本新喜劇を観劇するなど、エンターテイメント性の高い仕事に対する関心を高める。

ラーニング体験した家族の声

- 家族共有する時間ができた。
- 平日の旅行で費用が抑えられた。
- グレードアップなど選択の幅が広がった。
- 学びを意識することによる充実感。
- △ 子ども自身が学校を休むことに対する抵抗感。
- △ 授業の遅れ。

もっとラーニングが浸透して、子どもの抵抗感や授業のフォローなどの面も解消されることに期待したい。

宿泊施設によってはラーニングプランがあります！

ラーニングプランを設けている宿泊施設があります。

予約時にラーニングということを伝えて、
お得な体験プランなどを活用しましょう！

(例)自然観察、農業体験、手作り体験、火おこし体験など



高校でもラーニングは取れるの？

県立高校ではラーニングを申請することができます。
ただし、学校によってはラーニングを取ることが
できる日が年間行事の中で決められている場合があります。
ラーニングの活用は小中学生のうちがオススメです！



◆ラーニングについては、愛知県のホームページ等を参考にしてください

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/gimukyoiku/learcation.html>

令和7年度 役員・理事 紹介

＝役員＝

会長：亀田充俊（千郷中）

副会長：松下智茂宏（東郷中） 小柳津知之（八名中） 岡田高明（千郷小）

書記：日下誠（鳳来中） 齊藤和江（作手中）

会計：夏目厚（新城小） 白井純子（千郷小）

監事：太田友美子（東郷東小） 小林克伸（八名小）

顧問：原留衣

＝理事＝

☆新城中学校区☆ 京極隆人（新城小） 森下真樹（舟着小） 鈴木元紀（新城中）

☆千郷中学校区☆ 山崎亞紀子（千郷小） 伊藤夕子（千郷中）

☆東郷中学校区☆ 高木愛（東郷西小） 織田祥平（東郷東小） 鈴木友紀子（東郷中）

☆八名中学校区☆ 山本武久（八名小） 山本名穂実（庭野小） 山口佳廣（八名中）

☆鳳来中学校区☆ 山崎愛美（鳳来中部小） 佐藤貴之（鳳来寺小） 田中昌克（黄柳川小）
青木薰充（東陽小） 中村元彦（鳳来東小） 梶岡直美（鳳来中）

☆作手中学校区☆ 鈴木亜季（作手小） 原田智章（作手中）

編集後記：役員からひとこと

☆市P連の事業を何も知らないところからのスタートでしたが、皆さんに支えていただき、計画どおりに事業を遂行することができました。1年間、ありがとうございました。（副会長・松下）

☆新企画「写真コンテスト」には素晴らしい作品が集まり、子どもたちの感性に驚かされました。

また、役員の皆さんとの活動を通して、視野を広げることができたと思います。（副会長・小柳津）

☆2年間、市P連の活動にかかり、いろいろな学校のPTA役員さんとお話ししがれてとても勉強になりました。ありがとうございました。（副会長・岡田）

☆つくしんぼうの編集や各種会議の参加要請、また市P連の役員としてのほぼ毎月の会議。会社組織に属さない私には目新しい事も多かったです、良い経験が出来ました。（書記・日下）

☆会議や意見交換会への参加など、先生や他の保護者の方々から意見を聞く機会が持てて勉強になることばかりでした。役員、事務局のみなさんありがとうございました。（書記・齊藤）

☆私は役員になるまで市P連の存在すら知りませんでしたが、教科書の採択、給食の献立検討や選定、学校生活の大切な部分を垣間見ることができ、とても興味深かったです。（会計・夏目）

☆会議の合間に他愛のない情報交換も実のある時間でした。新城の子どもたちが幸せな子ども時代を過ごせるよう、今後もPTAの一員として協力していきたいです。（会計・白井）

☆市P連の色々な活動が、子どもたちの未来に少しでも良い形で反映されれば幸いです。役員、事務局の皆さん、一緒に活動出来て良かったです。ありがとうございました。（監事・小林）

☆役員の皆さんのおかげで楽しく活動できました。発言の面は心残りもありますが、視野が広がり、学びの多い一年でした。学校やPTA活動への理解も深まりました。（監事・太田）